

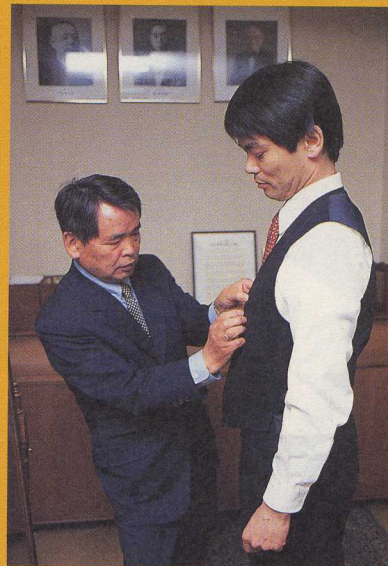
後編

ついに公開! これが100万円の使い道

柴田 充・文
text by Mitsuru Shibata
中本浩平・撮影
photographs by Kohei Nakamoto



←
お買い上げ・その①
ハンドメイドスーツ



ブリティッシュスタイルの3ピーススーツ。写真ではわかりづらいが、カゲシマと呼ばれるヘリンボーンが入った英国製随一の手織り生地を、質感を損わぬようにソフトに仕上げた。上着は2つボタン、ノーペンツ。パンツは2タックで折り返しは3.5cm。流行に流されることなく、フォーマルでも通用するスタイルだ。40万円。◆柴田音吉洋服店 神戸市中央区元町通4-2-22 ☎078・341・1161（予約制）

でき上がったスーツを初めて着る。本人ばかりか、仕立てを担当し、1万人以上の試着に立ち会ってきた稲沢さんにしても緊張の一瞬。「とくに初めての方のときはドキドキします」

神

戸の老舗店をハシゴした前回の取材から2か月、

ついにオーダーしたものができ上がったという連絡が入った。

これまでの経緯を説明してこう。本誌100号を記念した特別企画「100万円特派記者」で多数の応募の中から選ばれたのは、神戸在住の田路勝彦さん（40歳）だった。内容は地元神戸が誇る老舗名店でオーダーをしたいというものだった。

自分のために仕立てたものを、自分の暮らす街で手に入れる。オーダーともなれば、お店とのつき合いも一過性ではなくなるだろう。そうした中から、これからの自分のライフスタイルを高めていきたいという姿勢がうかがえたのだ。選んだのはスーツと書斎机。どんなものができ上がったのか。期待は高まる。

まず向かったのは、永田良介商店の工房。ここに完成したばかりの書斎机と椅子、本立てがあるという。工房に入ると、プンと木工の香りが漂う。

「あ、あった」

真新しい机が置かれていた。さっそく工場長の福村哲史さんが家具とのつき合い方をレクチャーしてくれる。作り手と直接話ができるのも、こんな機会ならはだ。